

各 位

臨床応用を目的とする解剖に関するご理解とご協力のお願い

拝啓

時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

皆様には、日頃、医学・歯学の教育と研究にご協力を賜り、医学・歯学の解剖学の教育と研究に支障を来たすことなくすすめることができますことは、ひとえに皆様とご家族ならびに関係者の方々の深いご理解によるものと感謝申し上げます。

さて、最近の医学・医療の技術の進歩はめざましく、これまで発見できなかったような病変を発見でき、不治の病と考えられていたものに対して手術や様々な診断方法や治療法が施され成果を挙げています。もちろん、このような高度な医療技術を習得しさらに発展させるためには、その基礎として人体の構造を学問の対象とする解剖学の高度な知識が必要となることは言うまでもありません。このような日進月歩の医学の発展に対し、解剖学の教育と研究につきましても、ただ医学部・歯学部の学生教育のレベルにとどまらず、卒業後の医師・歯科医師やその指導を担当する者の学術レベルの向上を目指す必要があります。このような高度な解剖学の知識は非常に専門的で、学生のレベルをはるかに超え、医師や歯科医師になって後、その専門性に応じて身につけるものであります。また、実際の臨床の場面を想定しつつ、複雑で精緻な人体を用いての教育・研究が必要になります。このような研鑽を通して、より安全で安心な医療を多くの患者に提供できるようになります。

かねてより、ともしび会発行のパンフレット「献体の輪をひろげよう」におきまして、献体について『**自分の遺体を医学生、歯学生をはじめ全ての医療従事者の教育と研究を目的とした「解剖実習」のための教材として、大学へ無償で提供すること**』とご説明申し上げ、ご理解をいただいているところです。しかしながら一方で、さらに具体性のある説明と同意のもとに進めるべきであるとの考え方があり、今回のご協力のお願いとなりました。

つきましては、同封の「臨床応用解剖」についての説明をお読みいただき、趣旨をご理解の上、「説明に対する回答書」にご記入いただきますようお願い申し上げます。

皆様のますますのご健勝を心よりお祈り申し上げます。

敬具

岡山大学医学部 脳神経機構学分野

教授 浅沼 幹人

岡山大学歯学部 口腔機能解剖学分野

教授 沢 禎彦

問い合わせ先：086-235-7092

## 「臨床応用解剖」についての説明

岡山大学に献体登録されている方が、この教育・研究課題の趣旨にご賛成いただき同意の旨を記した回答書を提出していただいて将来献体されたとき、場合によって「臨床応用解剖」を行うことがあります。

### 1. 教育・研究課題名と献体者への礼意

「臨床応用解剖」と表現します。「臨床応用解剖」には、関係者全員が献体者への礼意をもって参加します。

### 2. 教育・研究の背景・目的・方法

昨今の医療技術の進歩は目覚ましいものがあり、次の世代を担う学生並びに医療従事者に高度に発達した医療技術を継承していかなければなりません。高度な医療技術を修得して安全で安心な医療を提供していくためには、複雑で多様な構造の人体に対して、医療を行う場合を想定した実際的な教育・研究が最も効果的です。医療事故を無くし、患者の負担を軽減し、早期回復を図る上でも重要です。そこで、実際の医療で遭遇する解剖学的な諸問題の解決と高度な医療技術のための専門的な解剖学的知識の習得を目的として「臨床応用解剖」を実施し、学生および医療従事者の手技の継承と技術の向上を図ります。

### 3. 「臨床応用解剖」が実施された場合に学生対象の解剖実習との両立について

臨床応用解剖を実施した場合は通常の学生対象の解剖学実習での解剖を行うことはできなくなります。

### 4. プライバシーおよび個人情報の保護

献体いただいた個人の情報を「臨床応用解剖」の参加者が知ることはありません。

### 5. 「臨床応用解剖」の結果のお知らせ

結果について、ご遺族が知りたいと望まれる場合、直接ご遺族にその結果を説明させていただきます。

### 6. 費用

「臨床応用解剖」に関わる費用の負担はありません。また謝礼もありません。

### 7. 知的財産権について

「臨床応用解剖」の実施によって知的財産権が発生した場合は岡山大学に帰属します。

### 8. 同意の任意性とその同意の撤回

「臨床応用解剖」に関して、別紙「説明に対する回答書」にて「同意する」または「希望しない」のどちらかを回答し、署名してください。一度同意された場合でも、いつでも撤回することができます。その場合は電話などで担当者に口頭で伝えることで撤回できますが、念のため「同意撤回書」に署名していただきます。

なお、同意されなかったり、同意を撤回されたりしても、それによって不利益を被ることは決してありません。